

# 目次

序

小澤 実 3頁

## 第I部

### フォーラム：『ヨーロッパ中世の宗教運動』の解説

西洋中世の民衆宗教運動  
——グルントマン以降——

小澤 実 9頁

コメント1：「靈性」、「物語」、「民衆」  
——中世キリスト教史記述の3つのおおきな概念について——

鶴岡 賀雄 19頁

コメント2：ロマネスク、ゴシック期の宗教運動への視角

杉崎 泰一郎 25頁

コメント3：中世後期ヨーロッパの宗教文化の理解に向けて

赤江 雄一 31頁

コメント4：構造と運動  
——池上俊一『ヨーロッパ中世の宗教運動』の方法論をめぐって——

千葉 敏之 37頁

レスポンス

池上 俊一 43頁

## 第II部

### 『ヨーロッパ中世の宗教運動』に寄せる9稿

#### 1. 越境者との対話

美術様式と時代の色調

金沢 百枝 53頁

ビザンツの「民衆的宗教運動」とその「靈性」について  
——異端メッサリアノイの射程——

草生 久嗣 63頁

近世フランスから見た宗教運動  
——連続・変容・地域——

山本 妙子 73 頁

## 2. 宗教運動の震源

「十字軍」と「少年十字軍」  
——十字軍研究の立場から見た『ヨーロッパ中世の宗教運動』——

櫻井 康人 87 頁

中世のローマ教皇権と宗教運動

藤崎 衛 95 頁

都市の宗教とは何か

青谷 秀紀 105 頁

## 3. 「辺境」からの眼差し

中世スカンディナヴィア人と同時代ヨーロッパの靈性  
——北歐中世史から『ヨーロッパ中世の宗教運動』へのコメント——

成川 岳大 117 頁

フス派運動における民衆と民族  
——池上俊一著『ヨーロッパ中世の宗教運動』によせて——

藤井 真生 129 頁

スペイン中世から見た『ヨーロッパ中世の宗教運動』

村上 司樹 139 頁

後書きにかえて

小澤 実 153 頁

池上俊一 略歴と業績一覧 (2008 年 4 月まで)

池上 俊一／小澤 実／梶原 洋一 163 頁

執筆者一覧

171 頁

Table of Contents

175 頁

バックナンバー

177 頁